

イモリ



Vol. 82

しんぶん



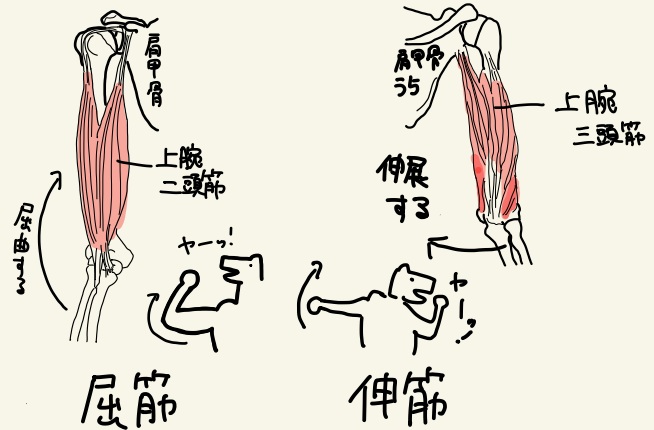
発行日：2023年 7月 11日

発行：朝日塾中等教育学校 理科

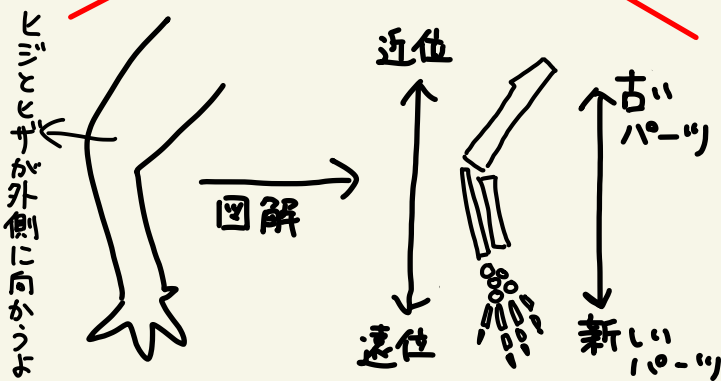
例：ヒトの屈筋と伸筋

イモリの姿勢3

前回の振り返り



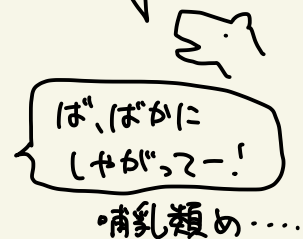
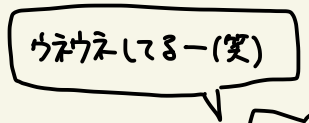
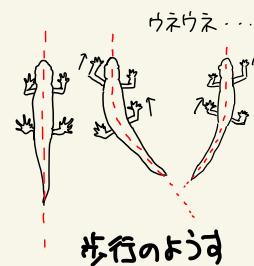
両生類や爬虫類の歩行は、哺乳類とはかなり異なります。両生類、爬虫類の肘と膝は外に向かって突き出しており、そのため、背骨を左右にくねらせながら歩行しています。哺乳類は、原始的な哺乳類から進化していく中で、四肢を伸ばして体幹の下に持ってきたので、背骨をくねらせることなく歩行することができます。哺乳類すげー！



骨格が変わると、その骨に付着する骨格筋の形態も変わります。

肩帯と腰帯の下部が大きく下がったことにより、四肢の下面に大きな筋肉をつけられるようになりました。この筋肉は屈筋であり、主に四肢を曲げるためにはたらきます。また、屈筋と対をなす伸筋（足を持ち上げるなど）の発達もありました。

屈筋や伸筋が魚類の頃に比べてよく発達したおかげで、四足歩行が可能になりました。



哺乳類はこの歩行のおかげで
とんだり(おたたり)することができ

参考文献

Radinsky, L. D. 2002. 脊椎動物デザインの進化 (山田格, 訳) (初版). 海游舎, 東京, 214pp.

次回 イモリの姿勢4 (歩行)